こゝろのちり　心の塵也、みだりなる意也、
こゝろのつゆ　心の露也、秋を悲む意也、
こゝろのなみ　心の浪也、さはがしき意也、
こゝろのしめ　心の注連也、愼みの意也、中略
こゝろのたき　心の瀧也、せき留がたき意也、
こゝろのまつ　心の松也、みさほのかはらぬ意にも、待にもかけてよめり、
こゝろのすぎ　心の杉也、すなほなる意、心の麻も同じ、中略
こゝろのうみ　心海也、梵書に見えたり、

〔類聚名義抄 六心〕性 音姓 コヽロ

〔段注說文解字 十下心〕性 人之昜气性、句善者也、論語曰、性相近也、孟子曰、人性之善也、猶水之就下也、董仲舒曰、性者生之質也、質樸之謂性、从心生聲、息正切、十一部、

〔類聚名義抄 六心〕天性 ヒトヽナリ

〔日本書紀 一神代〕一書曰、中略大日孁尊及月弓尊、並是質性(ヒトヽナリ)明麗、故使照臨天地、素戔嗚尊、是性好殘害、故令下治根國、

〔倭訓栞 前編十佐〕さが　日本紀祥字、善字、性字ともに訓せり、直をすぐとよみ清をすがとよむも皆通せり、祥善清直は、本性の德なる事知べし、源氏に世のさが、伊勢物語にさが見ん、俗に身のさが、又さがを隱すさがを顯す、などいふも、本性を指ていふなり、されば孝德紀に、瑕字をさがとよめるは僻也、生れつきなり、あるさま、氣ざしの方にもいへり、眞名伊勢物語に能をよめるは、態に通じてすがた也、

〔倭訓栞 中編五幾〕きしやう 中略 口語にいふは氣性成べし、又氣象の義あり、